

新河岸川流域水循環アクションプラン フォローアップ調査結果(令和7年度)

- 調査概要
- 市民が主体となる取り組み(市民)
- 市民が主体となる取り組み(市民団体)
- 行政が主体となる取り組み
- 流域状態量

令和8年3月
新河岸川流域水循環マスタープラン検討委員会 事務局
(荒川下流河川事務所)



調査概要 (1/2)

調査目的

- 新河岸川流域水循環アクションプランでは、フォローアップ調査を実施しています。
 - ① アクションプランの取り組みの進捗管理、見直しの判断
 - ② 新河岸川水循環マスタープランの点検

調査項目

調査対象	調査項目	調査対象年度
市民(個人)	<ul style="list-style-type: none">● 総合治水や水循環の理解度● 浸水被害の印象● 水質や水量、河川景観の印象● 水循環健全化の取り組み	<ul style="list-style-type: none">● 2025(令和7)年10月時点
市民団体	<ul style="list-style-type: none">● 水循環健全化の取り組み	<ul style="list-style-type: none">● 2024(令和6)年度
行政	<ul style="list-style-type: none">● 水循環健全化の取り組み	<ul style="list-style-type: none">● マスタープラン基本方針1~2: 令和5年度(令和4年度実施分) 令和7年度(令和5~6年度実施分)● マスタープラン基本方針3~4: 令和6年度(令和4~5年度実施分)
流域状態量	<ul style="list-style-type: none">● 水質● 地下水位	<ul style="list-style-type: none">● 2024(令和6)年度

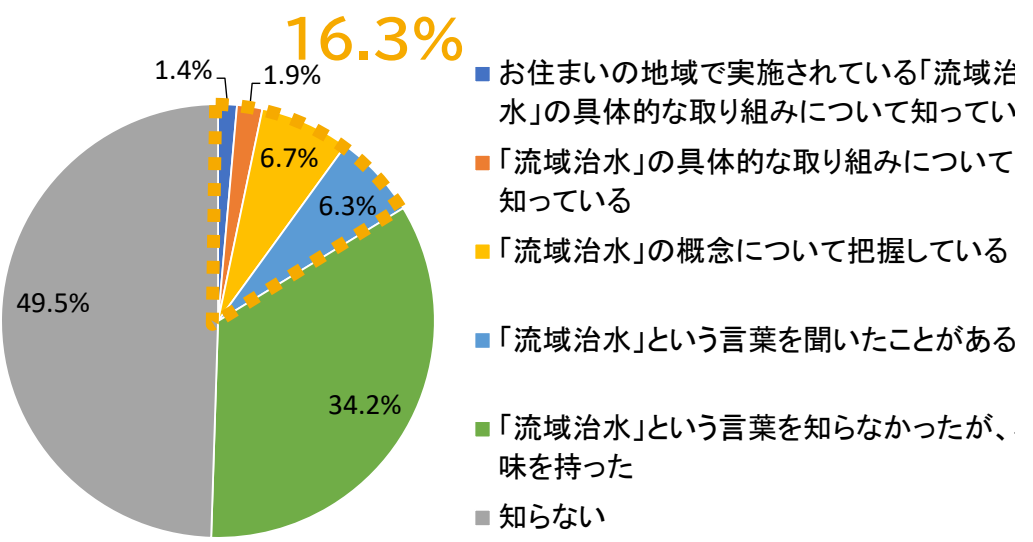
市民が主体となる取り組み(市民)



流域治水や水循環への理解

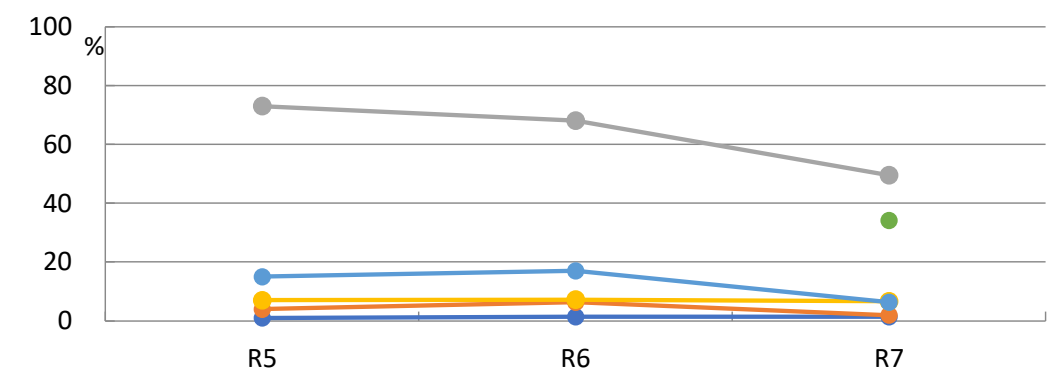
- 流域治水・水循環の認知状況
 流域治水の認知度:16.3% 水循環の認知度: 20.5%
- 新河岸川流域では、半数以上の住民が「流域治水」「水循環」という言葉を認知していない状況が確認されました。
 一方で、約3割の住民が“知らなかったが興味を持った”と回答しており、今後の普及啓発の余地が大きいと推測されます。

“流域治水”についてどの程度ご存知ですか。

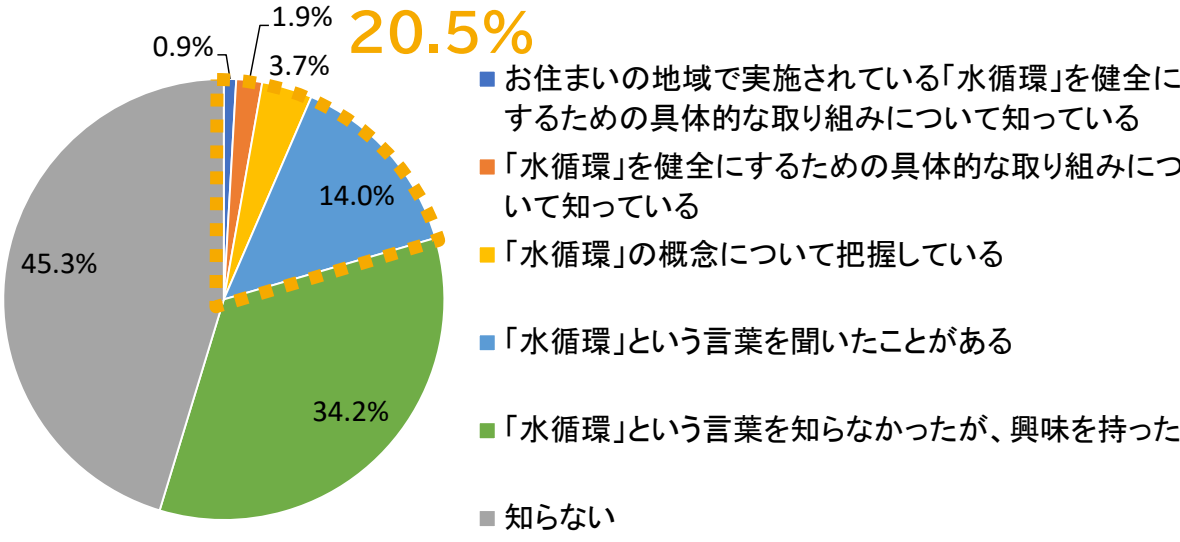


(N=430) ※今年度から「流域治水」という言葉を知らなかったが、興味を持った」という項目を追加した

参考 | 経年変化

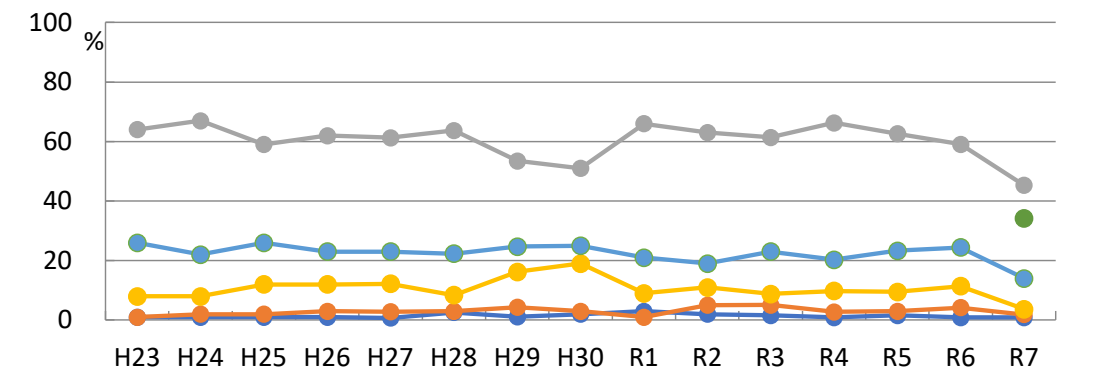


“水循環”についてどの程度ご存知ですか。



(N=430) ※今年度から「水循環」という言葉を知らなかったが、興味を持った」という項目を追加した

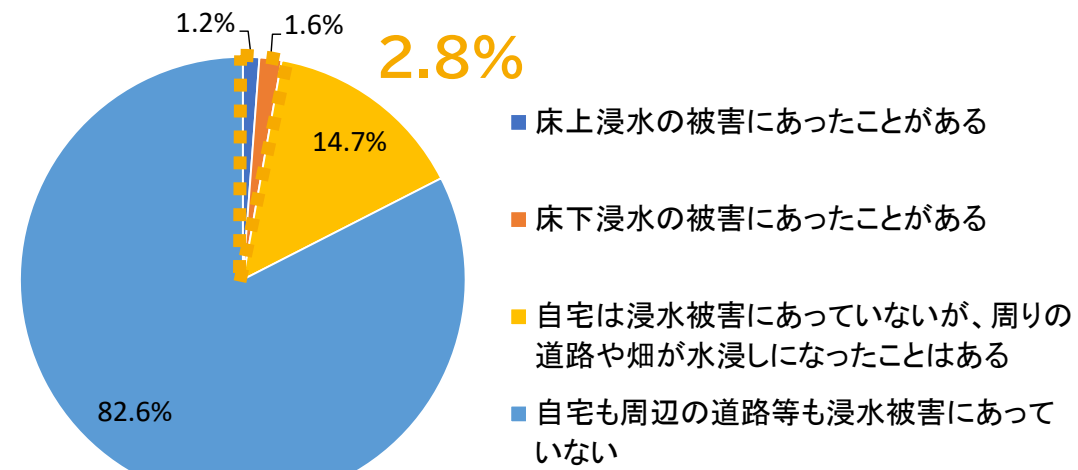
参考 | 経年変化



浸水被害の印象

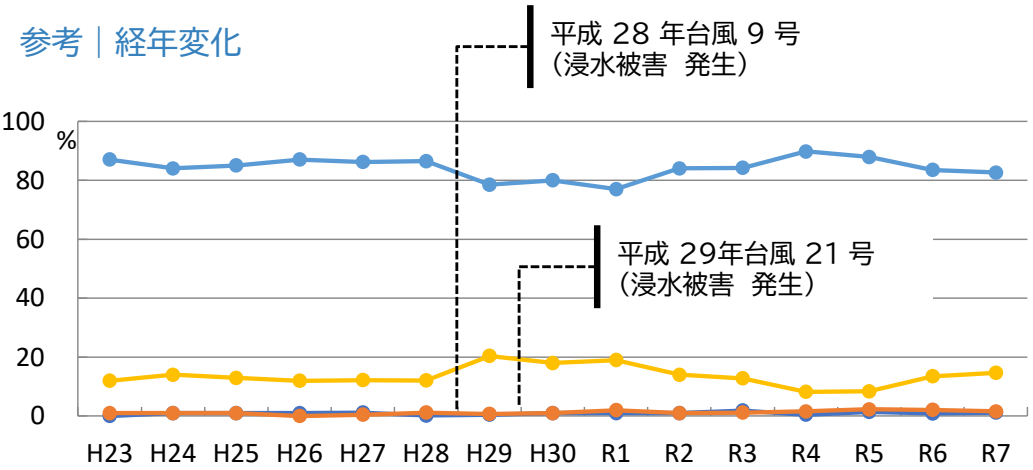
- 浸水被害(床上・床下)の経験者は2.8%と少数でした。
- 水害に不安を感じている方は23.5%で、約8割の住民は“不安は感じていない”と回答しています。

現在、お住まいのお宅で床上・床下浸水などの被害にあったことがありますか。

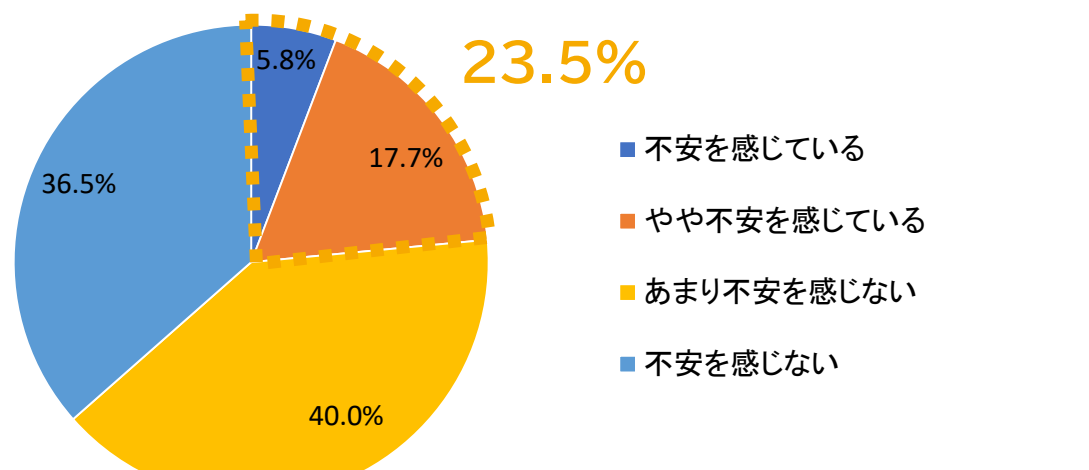


(N=430)

参考 | 経年変化

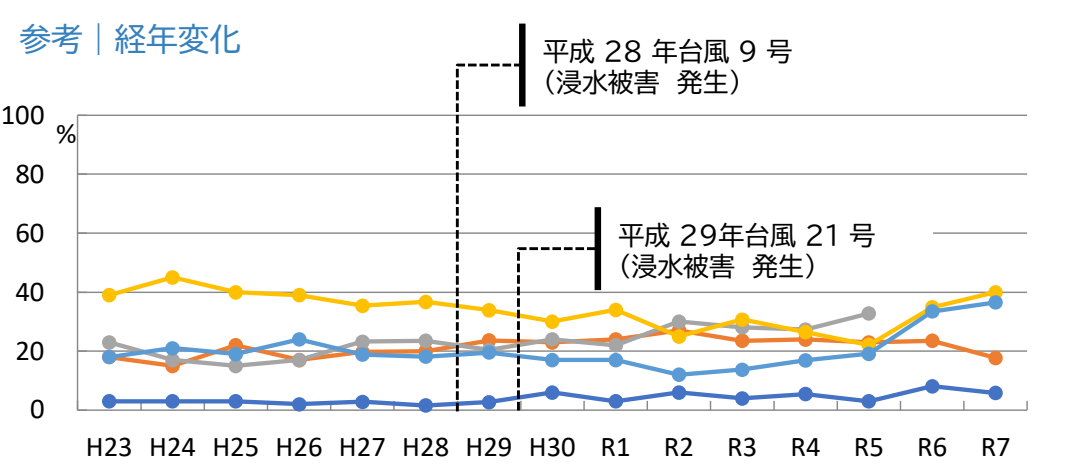


現在、お住まいの地域で河川の氾濫などの水害について、どのように感じていますか。



(N=430)

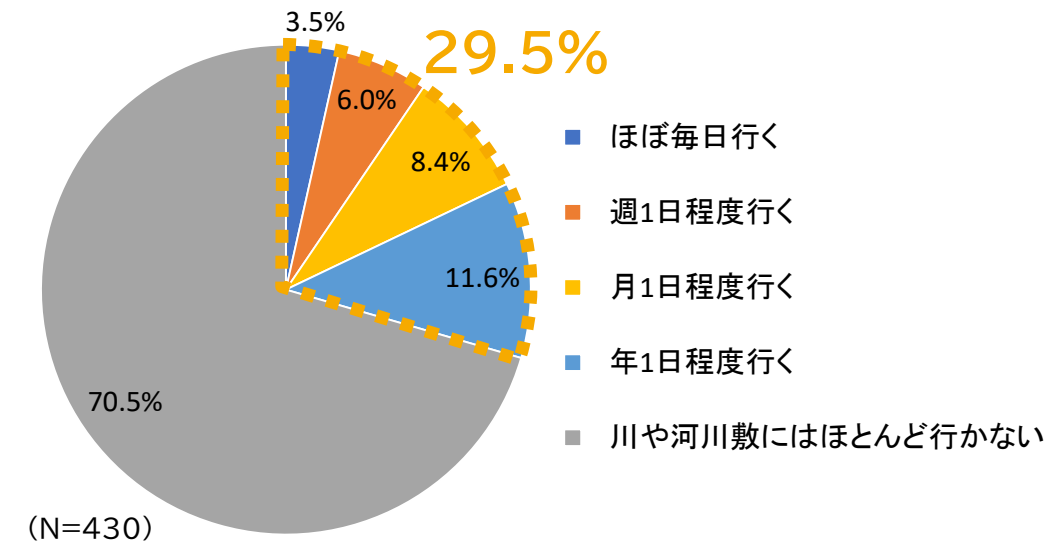
参考 | 経年変化



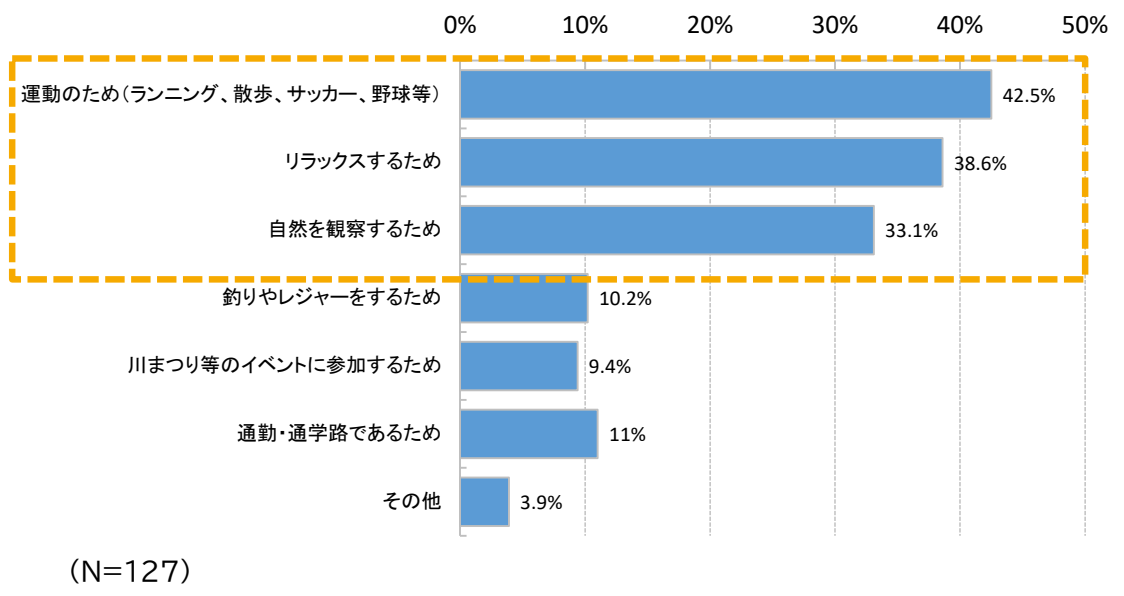
川の利用状況

- 川や河川敷を利用している人は 29.5% にとどまり、約7割の住民は日常的に利用していません。
- 川を訪れる人(N=127)の主な目的は次のとおりです。
1位: 運動のため(42.5%)
2位: リラックスのため(38.6%)
3位: 自然観察のため(33.1%)

普段、川や河川敷に行くことはありますか。



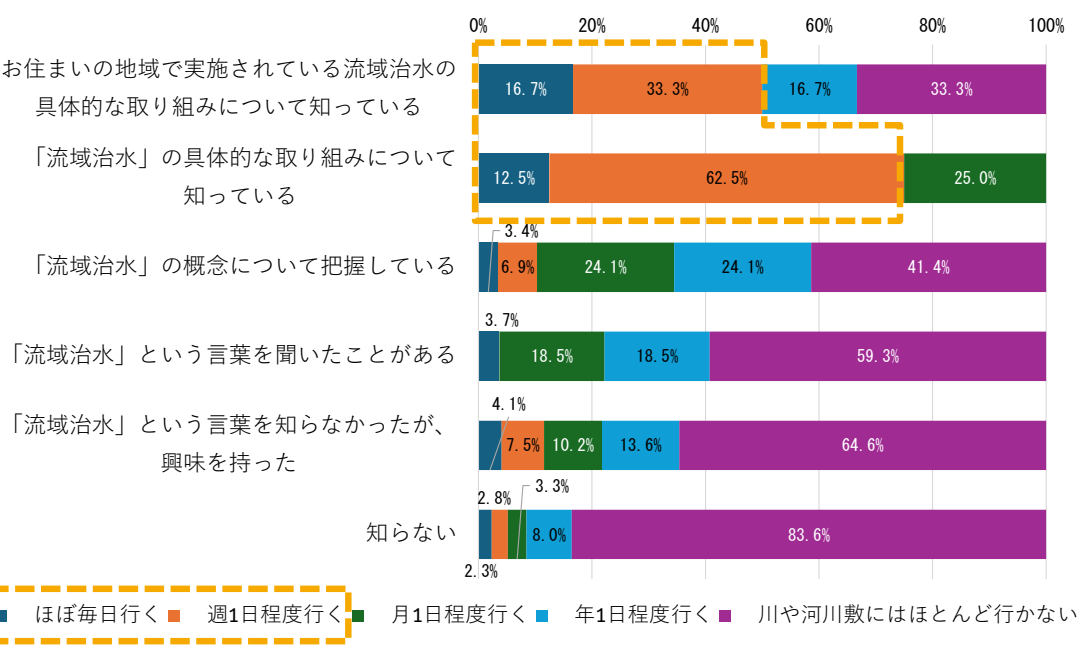
川や河川敷に行く目的を教えてください。
(複数選択可)



川の利用状況×流域治水や水循環への理解(クロス集計)

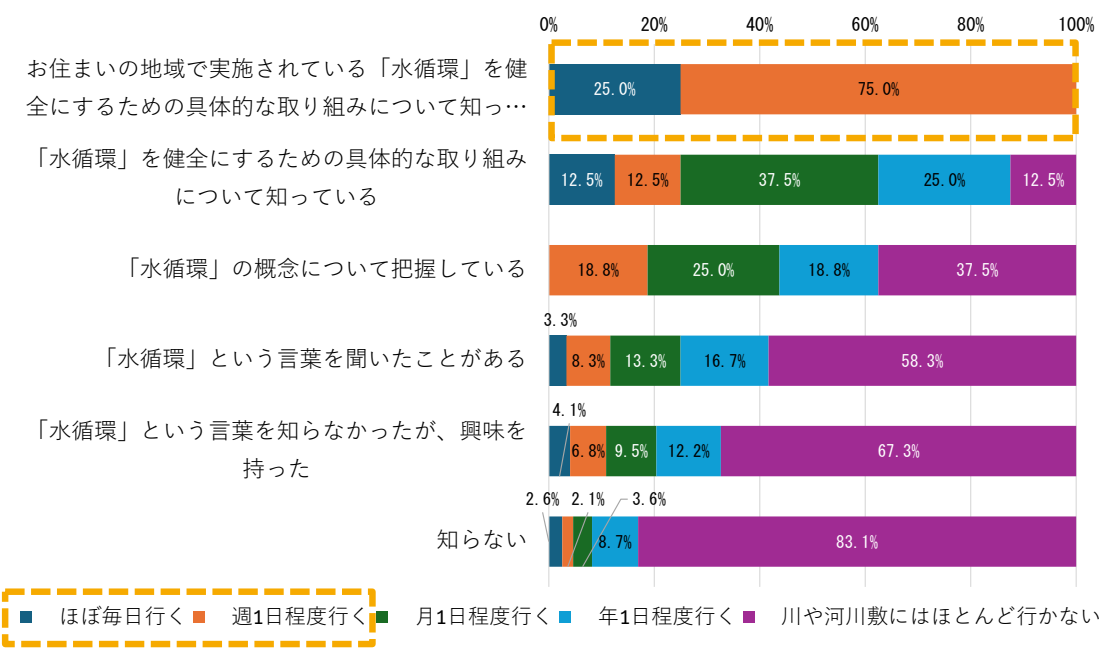
● 川や河川敷を頻繁に利用する人(ほぼ毎日・週1日程度)は、流域治水や水循環への理解度が高い傾向にあります。

川の利用状況×流域治水への理解



(N=430)

川の利用状況×水循環への理解

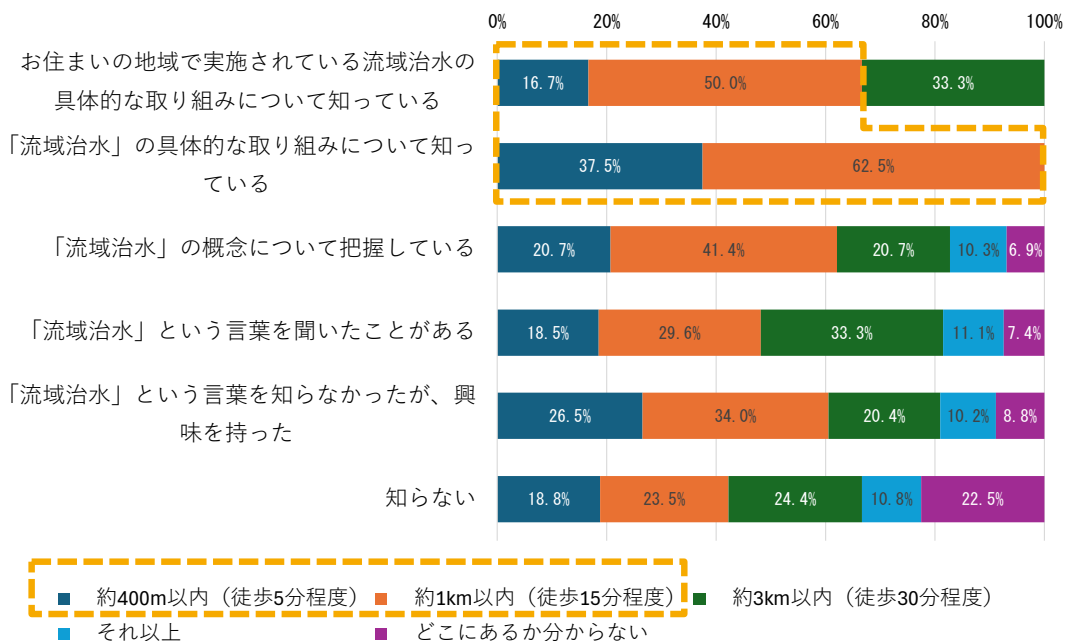


(N=430)

自宅から川までの距離×流域治水や水循環への理解(クロス集計)

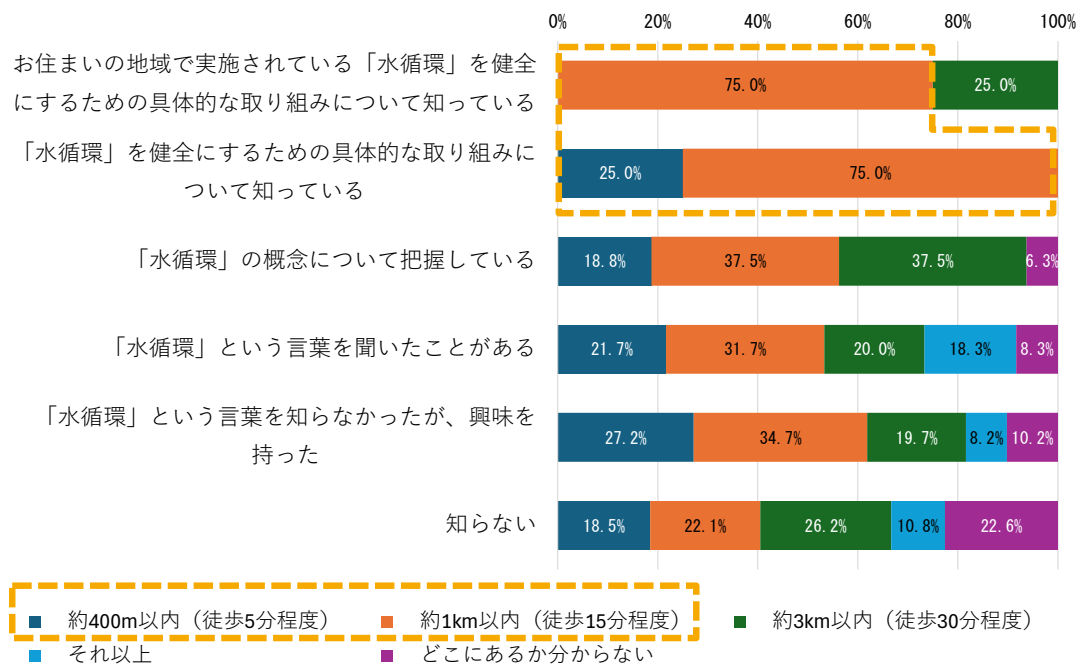
- 川の近くに住んでいる人(約400m以内・約1km以内)は、流域治水や水循環への理解度が高い傾向にあります。

自宅から川までの距離×流域治水への理解



(N=430)

自宅から川までの距離×水循環への理解



(N=430)

水循環健全化の取り組み

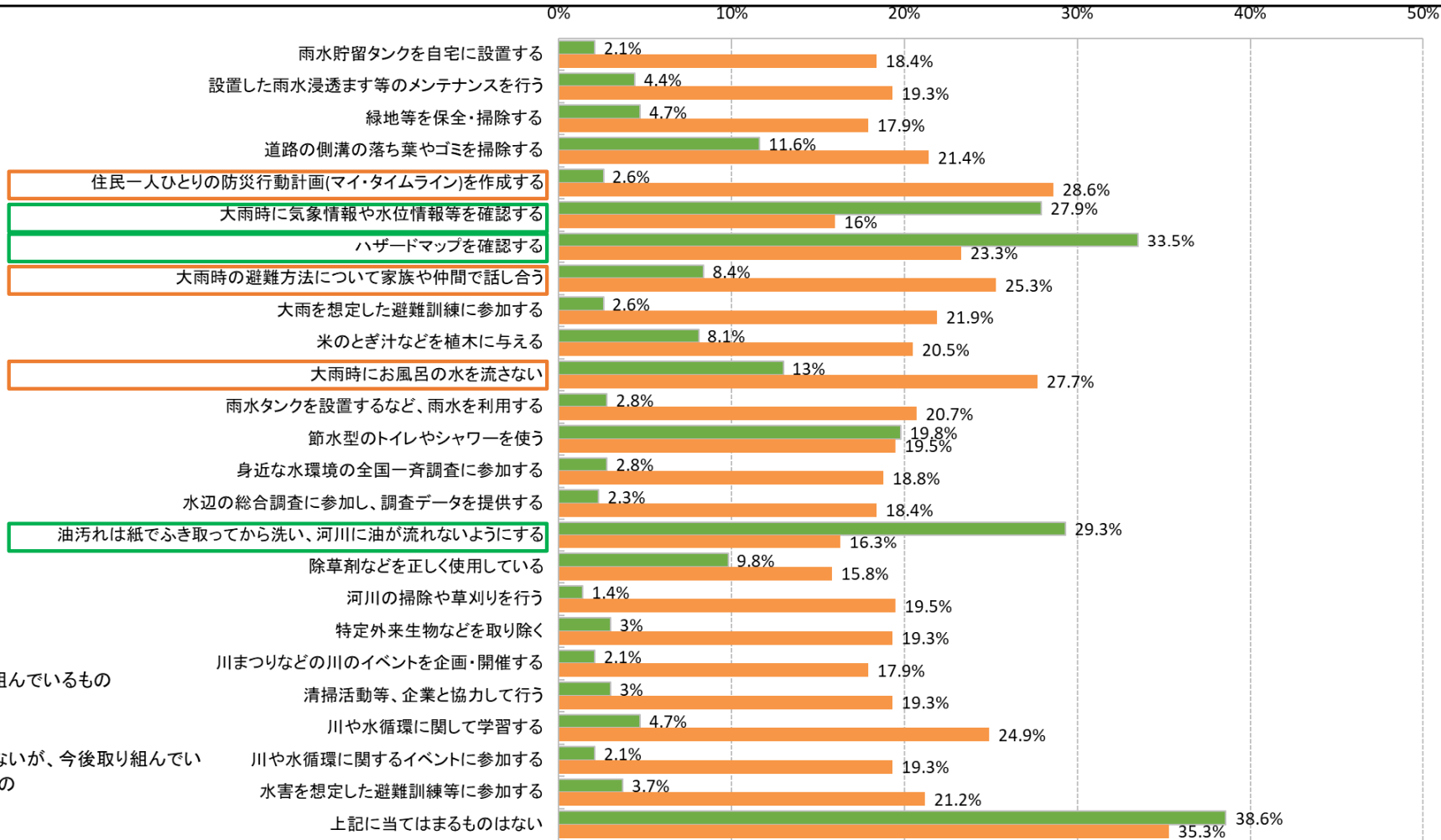
<日頃から取り組んでいること>

- 「ハザードマップを確認する」が最も多く、
- 次いで「河川に油が流れないようにする」、「大雨時に気象情報や水位情報等を確認する」が多くなりました。

<今後取り組んでいきたいと思うこと>

- 「住民一人ひとりの防災行動計画(マイ・タイムライン)を作成する」、「大雨時にお風呂の水を流さない」、「大雨を想定した避難訓練に参加する」が多くなりました。
- 一方で、約35%が「当てはまるものはない」と回答しており、水循環健全化の必要性や、日常の行動が水循環に与える影響についてさらに理解を深めてもらう必要があります。

水循環の健全化のために、取り組んでいるもの、今後取り組んでいきたいものをすべてお選びください。(複数選択可)



(N=430)
 ▼調査期間 | 2025年10月29日(水)~10月31日(金) ▼調査対象 | 性別・年代・流域ブロックの割合で割り付けた20代以上の住民430サンプル ▼調査方法 | 民間ネット調査

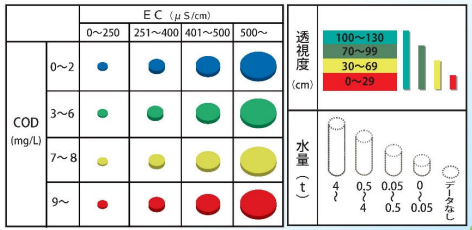
■ 日頃から取り組んでいるもの
 ■ 今は行っていないが、今後取り組んでいきたいと思うもの

身近な川・里川の一斉調査

- 2025年6月8日、「身近な川・里川の一斉調査」が実施され、市民および市民団体が参加しました。
- 新河岸川流域の約200地点で水質調査が行われました。

新河岸川水系 2025・6・8 身近な川・里川の一斉調査

近年、河川や水辺など身近な水環境の保全や修復に関する意識が高まっています。そこで、毎年全国各地で統一した水質調査を実施するために、「身近な水環境の全国一斉調査」が行われています。本マップでは、「身近な水環境の全国一斉調査」の日に新河岸川流域で実施した水質・水量調査の結果を紹介します。



水質の調査内容

調査方法及び調査項目は、以下のとおりです。

- バックテストでpH・亜硝酸性窒素・アンモニウム性窒素・COD
- EC計で電気伝導度
- クリーンメジャーで透視度
- メジャーで川幅・水深
- 目視で川の様子・生き物・植物等調査結果は、報告書にまとめています。

詳しくは新河岸川水系水環境連絡会まで連絡をお願いします。

Chemical Oxygen Demand
COD(化学的酸素要求量)
水中の有機物の量を示します。汚れが多いと、CODの数値が高くなるため、水の汚れの指標とされます。

Electrical Conductivity
EC(電気伝導度)
水中の無機イオンの総量を示します。不純物が多いと数値は高くなります。塩分が多い水ではECは高くなります。

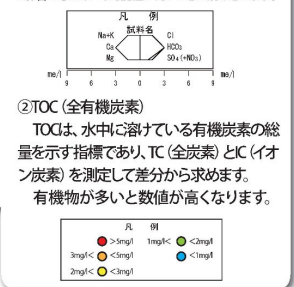
Transparency
透視度
目で見た水の透明の度合いを示します。透視度が高い(130cm)方が、きれいな水です。種々の汚れのほか、細かい土が混ざっていても、透視度は下がります。

研究機関による水質の分析

研究機関では、下記の指標を用いて、新河岸川流域の水質分析を行っています。

① 主要溶存成分
水は主にNa⁺、K⁺、Ca²⁺、Mg²⁺の陽イオンとSO₄²⁻、NO₃⁻、HCO₃⁻、Cl⁻の陰イオンが溶けています。それぞれのイオンの濃度を軸にとり調査結果を示し、陽イオンと陰イオンのバランスを見ることで、水質の状態を知ることができます。この分析方法は「主要溶存成分水質分析」と呼ばれます。

② 主要溶存成分水質分析 (シュティフダイアグラム)
NO₃の濃度が大きいと調査地点上流域に農地があり、農業用の肥料の成分が地下水や湧水を通して河川水質に影響を与えている可能性が高いことが読みとれます。



2025一斉調査 新河岸川水系水環境連絡会参加団体

- あさか環境市民会議
- エコシティ志木
- 空堀川に清流を取り戻す会
- 空堀川を考える会
- 川クラブ
- 川づくり・清瀬の会
- 北川かつぱの会
- 黒目川流域川づくり懇談会
- 黒目川に親しむ会
- 埼玉西部・土と水と空気を守る会
- 自由学園
- 白子川(清流・水辺の会)
- 白子川流域の水環境を良くする会
- 新河岸川水系水環境連絡会
- 砂川(清流域)川づくり懇談会
- 生活クラブ生協 狭山支部
- 生活クラブ生協 所沢支部
- 所沢北高校
- 新屋川協
- 練馬水環境の会
- 法政大学
- 東久留米 ホタルを呼びもどす会
- 東久留米 ほとけどうしょうを守る会
- 源の森(掃除有志)
- 不老川流域川づくり市民の会
- ニヶ島梅林湧水
- 明法中学校・高等学校 科学部
- 柳瀬川をきれいにする会
- 山室湧水路の清流保全プロジェクト
- わくわく新河岸川みどりの会
- 和光自然環境を守る会
- NPO法人和光・緑と湧き水の会



新河岸川流域川づくり連絡会 / 東京都北区志茂 5-4-1-1
(事務局：国土交通省荒川下流河川事務所流域治水課) / 電話 03-3902-3220

データ提供 新河岸川水系水環境連絡会 埼玉県和光市志茂 31-12-406 電話 090-2642-9442

市民が主体となる取り組み(市民団体)



主な活動内容

● 市民団体では、流域ごとに以下のような活動が行われています。

ブロック名	活動内容
新河岸川流域全体	新河岸川水系 身近な川・里川の一斉調査を実施
	新河岸川流域の外来種の情報や処理方法を共有
	新河岸川流域の各団体へ、川まつりや川の体験学習等の情報を提供
	埼玉県の水再生センターとアンモニア性窒素の硝化処理(高度処理)を検討している
新河岸川本川ブロック	志木市の斜面林(いろは親水公園)の手入れ作業
	河川敷・堤防のごみ拾い(埼玉県川の国応援団に登録)
黒目川ブロック	新河岸川水系 身近な川・里川の一斉調査を実施、データを整理し報告
	校内井戸での地下水位の連続観測
	環境省所管全国水生生物調査に継続参加
	年間を通じて、東京都の保全緑地8箇所の保全活動を実施
	春の湧水期と秋の豊水期に、東久留米市の黒目川・落合川・立野川の湧水地点(約130地点)の水温、DO、流量を調査
	ゴミ拾い等の定例美化活動を実施
	毎月1回以上、市内の各団体が河川清掃を実施
	小学校の川での体験学習で生きもの調査をして、児童用の教材で講義を実施
	小学校の川での体験学習を実施や総合学習を支援
	都建設事務所と情報交換
	埼玉県川の再生交流会に参加等
	水都大垣水循環フォーラム2025への参加
	浄化槽に関する自主勉強会を実施

ブロック名	活動内容
黒目川ブロック	イベントに新河岸川流域の河川整備の状況の各種の治水パネル展示を実施し多くの市民への情報提供
	市民団体、都立高校・企業び、市行政、都建設事務所の協力により、7月に河川清掃&川遊びのイベントを開催
	夏休みジャブジャブ大会を開催
	和光市主催のお祭りや市内最大の団地の夏祭りに青空水族館を出店
	和光市役所SDGsセミナーに参加(小学4年生から中学生対象、講演及び出展)
	和光市環境づくり市民会議に継続参加
	”埼玉県NEXT水辺再生in越戸川”に参画
	定例美化活動の折下水道との接続口の状況確認
	市と協力して、下水道未接続家屋への接続普及を進めている
	黒目川、落合川で「川塾」を開催、水生生物調査を実施
	立野川源流・東久留米市向山緑地の保全への参加
	立野川(校内)の管理、オオカワヂシャ駆除
	自然観察会の実施
	7月に河川清掃及び川遊びのイベントで都立高校生と一緒に河川のごみ調査を実施。ごみデータを集積して、市民の川ごみの削減を啓発

主な活動内容

● 市民団体では、流域ごとに以下のような活動が行われています。

ブロック名	活動内容
柳瀬川・砂川堀 ブロック	志木市の斜面林(西原第三公園・いろは親水公園)の手入れ作業
	河畔林の育成、河川内樹木の剪定と間伐
	水路隣接の民有地駐車場に面した水路内の除草・伐採は個人が実施
	河川内の定期的な清掃
	図川、山室排水路のゴミ拾い、流路確保を実施
	北多摩北部建設事務所と打ち合わせをして、河川内の樹木の伐採と剪定・草刈りを実施
	小学校で6月に川そうじ、7月に魚とり、9月と10月に外来種をテーマにした総合的学習を支援
	小学生の総合学習の時間に、水循環や川の自然についての授業、川の水質について学ぶ授業を支援
	学校の総合学習に協力して、河川のゴミ拾いと、生物調査を実施。
	保育所年長組さんが、オタマがカエルになる時に見学
	勝瀬中学生徒25名がボランティア活動として、ホトケドジョウの保全に参加。その後、隣接集会所で金澤光氏、南部漁協・佐藤氏の解説受講。
	トトロの森の保全活動に参加
	川の水量・水質の一斉調査に参加(新河岸川水系の水質調査に参加)
	柳瀬川・新河岸川の河川敷・堤防のごみ拾い(川の国応援団に登録)
	年2回北川クリーンアップ、3~12月に定例川そうじを実施
流路確保、ハープ工設置に努めている	
図川管理用通路の除草の成果か、ヤゴが増加している	
堆積土砂の移動を適宜実施している	

ブロック名	活動内容
柳瀬川・砂川堀 ブロック	収集ゴミのデータ作成、採取した生きもののデータを記録・保存している。
	川ゴミについて、清掃した川ゴミの量を公表し、海洋ゴミ削減の必要性を説明している。
	市内にある金山緑地公園内の池に棲む外来種駆除を年一回実施している。
	特定外来生物などを防除を北山公園内の池で4~10月に実施
	自然観察会や斜面林の植生調査を実施
	イベントや観察会の時に、生物採集を実施し、生物種を確認している。
	北山公園内で5月にカエル調査、9月に昆虫類等の調査、北川で魚類調査を実施
	川まつりに参加してブースに採集した生物・解説パネルを展示
	9月に北山わんぱくまつりを開催
	ふるさと祭りでブース出展
	ホームページ公開、会報発行、ホームページには防災情報を掲載
	三芳町のこどもエコクラブの魚とり体験に協力
	夏休み中心に、市民親子が多数、ガサガサの体験と湧水の水温25℃を実感してもらう
	埼玉県の懇談会等に参加
	新河岸川流域川づくり連絡会に参加
川でつながる発表会に参加	

活動状況写真

- 報告いただいた活動状況の写真(抜粋)を示します。

総合学習支援(川の生き物)



身近な水環境の全国一斉調査



美化作業



外来種駆除(追い込み中)



北山わんぱく夏まつり



環境省所管全国水生生物調査



活動にあたっての課題・感想など

● 市民団体から寄せられた主な課題や意見は以下のとおりです。

マスタープラン 基本方針	取り組み内容	取り組みにあたっての課題※
1. 人命被害や社会経済被害を極力軽減する安全・安心な社会の構築	緑地等を保全・清掃します。	流域全体での緑地保全の取り組みは無く、市民がそれぞれ行政と連携して活動している状況。今後は、新河岸川流域水循環マスタープラン検討委員会等で、流域全体の緑地等の保全や一斉清掃などをアクションプランに盛り込むことを望む。(新河岸川流域全体)
	イベントにおいて、雨水浸透ます、雨水タンクのPRを進め、その普及や流出抑制意識の向上に努めます。	長年継続しているが、主催団体の高齢化が進み、次世代の担い手を確保する仕組みづくりが課題。(黒目川ブロック)
2. 自然環境が保全され人間社会の営みとの適切なバランスを保った水循環系の実現	井戸の水位調査により、地下水位の保持や湧水保全のためのモニタリングを行います。	調査の担い手不足により、2025年度から調査規模が縮小している(黒目川ブロック)
3. 流域の水辺に多くの市民が集う水辺環境や自然環境の形成	河川周辺の清掃や草刈等をします。	猛暑の影響で、草刈りの頻度が増加している。(黒目川ブロック)
	特定外来生物などを防除します。	作業が属人化し、継続性に懸念がある(黒目川ブロック)
	ワンドのかいぼりを行います。	河床に上流域からの土砂流入が見られる。(柳瀬川・砂川堀ブロック)
4. 人と人が水を通じてつながりあう社会の構築	川まつり等、川に関するイベントを企画・開催します。	会員の高齢化に伴い、テントなど重量物の運搬や設営が年々困難になっている。(黒目川ブロック)
	下水道未接続生活排水を無くす活動を継続します。	未接続家屋へ接続依頼に関して、市民レベルでの働きかけには限界があり、行政による工夫した取り組みが必要。(黒目川ブロック)

行政が主体となる取り組み



MP基本方針1 人命被害や社会経済被害を極力軽減する安全・安心な社会の構築(1/2)

- MP基本方針1では、概ね取り組みが実施されています。
- 1巡目調査以降、不老川流域では「緑地・農地の保全、自然地の質の向上」に関する全ての取り組みが実施されるようになりました。

MP計画目標	NO	AP計画目標		流域全体		新河岸川本川		不老川		柳瀬川・砂川堀		黒目川		白子川	
				0%	50%	100%	0%	50%	100%	0%	50%	100%	0%	50%	100%
①総合治水対策の推進	1	緑・農地の保全、自然地の向上	R4実施 R5~6実施	対象外											
	2	雨水貯留・浸透施設の普及	R4実施 R5~6実施												
	3	土地利用の規制、誘導(宅地造成の抑制等)	R4実施 R5~6実施		対象外		対象外		対象外		対象外		対象外		対象外
	4	防災調節池の整備	R4実施 R5~6実施	対象外											
	5	下水道対策(貯留管の整備等)の推進	R4実施 R5~6実施	対象外											
	6	流域一帯となった内水対策(内水排除ポンプの整備等)	R4実施 R5~6実施	対象外											対象外
	7	超過洪水(気候変動による大雨)への適応策	R4実施 R5~6実施												対象外
	8	河川、水路の改修	R4実施 R5~6実施												対象外
	9	堆積土砂・ヘドロ等の浚渫、抑制	R4実施 R5~6実施												
	10	自然地の質の向上	R4実施 R5~6実施	対象外											対象外
	11	河道内樹木の適正管理	R4実施 R5~6実施	対象外											対象外
	12	内水氾濫の軽減	R4実施 R5~6実施	対象外											対象外
	13	流出抑制意識の啓発	R4実施 R5~6実施	対象外											対象外
	14	水防災意識の啓発	R4実施 R5~6実施	対象外											対象外

MP:マスタープラン、AP:アクションプラン

MP基本方針1 人命被害や社会経済被害を極力軽減する安全・安心な社会の構築(2/2)

- 1巡目調査以降、白子川流域では「情報収集・連絡体制の整備」に関する全ての取り組みが実施されるようになりました。
- 各流域で取り組みの拡大や縮小はあるものの、全体として概ね実施が進んでいます。

MP計画目標	NO	AP計画目標	R4実施 R5~6実施	流域全体		新河岸川本川		不老川		柳瀬川・砂川堀		黒目川		白子川	
				0%	50%	100%	0%	50%	100%	0%	50%	100%	0%	50%	100%
②水防災意識社会の表現	15	洪水時の安全な避難確保	R4実施 R5~6実施	対象外		対象外		対象外		対象外		対象外		対象外	
	16	流域一帯となった防災訓練、水防訓練、水災に対する危機管理訓練	R4実施 R5~6実施	対象外						←	←				
	17	ハザードマップの作成・周知・見直し	R4実施 R5~6実施												
	18	情報収集・連絡体制の整備	R4実施 R5~6実施					←				←			→
	19	住民等の行動につながるリスク情報の周知	R4実施 R5~6実施	対象外						対象外		対象外			
	20	避難行動を促すためのリアルタイム情報の提供やプッシュ型情報の発信体制構築	R4実施 R5~6実施					→							←
	21	事前の行動計画(タイムライン等)の周知、作成	R4実施 R5~6実施	対象外											
	22	マイタイムラインの周知	R4実施 R5~6実施	対象外											
	23	水害時の避難経路の整備	R4実施 R5~6実施	対象外						対象外		対象外			
	24	災害用井戸の指定・活用	R4実施 R5~6実施	対象外											
	25	防災教育・河川環境教育	R4実施 R5~6実施									←			
	26	河川施設の役割について地域住民の理解を深める活動	R4実施 R5~6実施									←			
	27	災害拠点病院・大規模工場等へ浸水リスクの説明と水害対策等の啓発活動	R4実施 R5~6実施	対象外		対象外			対象外		対象外			対象外	
28	自主防災組織の活性化および防災リーダーの養成	R4実施 R5~6実施	対象外												
29	堤防復旧、排水活動の各種計画策定	R4実施 R5~6実施			対象外			対象外		対象外		対象外		対象外	

MP:マスタープラン、AP:アクションプラン

MP基本方針2 自然環境が保全され人間社会の営みとの適切なバランスを保った水循環系の実現

- MP基本方針2では、一部未実施の取り組みがあるものの、概ね取り組みが実施されています。
- 「老朽化した下水道管の更新」に取り組めていない自治体が増加しています。



MP: マスタープラン、AP: アクションプラン

■ 昨年度よりも拡大して実施した
 ■ 昨年度と同程度で実施した
 ■ 実施していないが、これから5年以内に実施する予定
 ■ 実施しておらず、今後の予定もない

MP基本方針3 流域の水辺に多くの市民が集う水辺環境や自然環境の形成

- 流域全体のブロックでは、「河川を中心とした景観形成」や「矢板護岸・不法占有の対策」などの取り組みが昨年度より拡大して実施されました。
- 一方で、「水辺へのアクセス整備」は本年度(令和6年度調査時点)では未実施でした。
- その他のブロックでは、昨年度と同程度の取り組み状況が維持されています。

MP計画目標	NO	AP計画目標	R4~5実施	流域全体		新河岸川本川		不老川		柳瀬川・砂川堀		黒目川		白子川	
				0%	50%	100%	0%	50%	100%	0%	50%	100%	0%	50%	100%
⑥市民が集う水辺環境の形成	47	河川を中心とした景観形成	R4~5実施	[Red bar]		対象外		対象外		[Yellow bar]		対象外		対象外	
	48	川を活かしたまちづくり	R4~5実施	対象外		対象外		対象外		対象外		対象外		対象外	
	49	市民・市町村・河川管理者が一体となった川の治いのまちづくり	R4~5実施	[Yellow bar]		対象外		対象外		対象外		対象外		対象外	
	50	水と緑のまちづくりの方針	R4~5実施	対象外		[Yellow bar]		[Yellow bar]		対象外		対象外		対象外	
	51	新しい親しめる水辺環境の創造	R4~5実施	対象外		対象外		対象外		対象外		対象外		対象外	
	52	樹木、花々の植栽	R4~5実施	対象外		[Yellow bar]		対象外		対象外		対象外		対象外	
	53	桜並木の維持・整備	R4~5実施	[Yellow bar]		[Yellow bar]		対象外		[Yellow bar]		[Yellow bar]		対象外	
	54	河川沿いの道路の活用	R4~5実施	対象外		対象外		対象外		[Yellow bar]		対象外		対象外	
⑦多自然川づくりの推進	55	水辺へのアクセス整備	R4~5実施	[Blue bar]		対象外		対象外		対象外		対象外		対象外	
	56	矢板護岸・不法占有の対策	R4~5実施	[Red bar]		対象外		対象外		対象外		対象外		対象外	
	57	河川流量の確保・水質の保全	R4~5実施	[Yellow bar]		[Yellow bar]		[Yellow bar]		[Yellow bar]		対象外		[Yellow bar]	
	58	池の水質の保全	R4~5実施	対象外		[Yellow bar]		対象外		対象外		対象外		[Yellow bar]	
	59	河畔林の保全	R4~5実施	対象外		対象外		対象外		対象外		対象外		対象外	
	60	河畔林や河道の瀬・淵・湾曲などの保全・創出	R4~5実施	対象外		対象外		対象外		[Yellow bar]		対象外		対象外	
	61	希少種・固有種の保護	R4~5実施	対象外		対象外		対象外		対象外		対象外		対象外	
	62	生物多様性の保全	R4~5実施	対象外		[Yellow bar]		対象外		対象外		[Yellow bar]		[Yellow bar]	
	63	生きものの生息・生育環境に配慮した河川整備	R4~5実施	[Yellow bar]		対象外		対象外		[Yellow bar]		対象外		[Yellow bar]	

MP: マスタープラン, AP: アクションプラン

MP基本方針4人と人が水を通じてつながりあう社会の構築

- MP基本方針4では、一部未実施の取り組みがあるものの、全体として概ね実施が進んでいます。
- ただし、「市民と行政の連携・協働、市民活動の支援」には、取り組めていないブロックが一部存在します。
- 柳瀬川・砂川堀ブロックでは、令和6年度時点で未実施の取り組みや、今後も実施予定のない取り組みが見られます。

MP計画目標	NO	AP計画目標		流域全体		新河岸川本川		不老川		柳瀬川・砂川堀		黒目川		白子川	
				0%	50%	100%	0%	50%	100%	0%	50%	100%	0%	50%	100%
⑧連携・協働、市民参加環境学習・防災教育	64	川への関心向上	R4~5実施	[Yellow]		[Yellow]		[Yellow]		[Yellow]		[Yellow]		対象外	
	65	イベントの開催	R4~5実施	対象外		[Yellow]		[Yellow]		[Yellow]		[Yellow]		[Yellow]	
	66	環境学習施設の設置	R4~5実施	対象外		対象外		対象外		対象外		対象外		該当なし	
	67	河川環境教育の推進	R4~5実施	対象外		対象外		対象外		対象外		対象外		対象外	
	68	水害を想定した避難訓練の推進、実施、防災教育	R4~5実施	対象外		対象外		対象外		[Yellow]		対象外		対象外	
	69	流域の人と自然資源との関わりでの健全化	R4~5実施	対象外		対象外		対象外		対象外		対象外		対象外	
	70	水辺の清掃活動の実施	R4~5実施	対象外		[Yellow]		対象外		[Yellow]		[Yellow]		対象外	
	71	水循環・水環境の状態に関するデータ・情報の公開	R4~5実施	[Yellow]		対象外		[Yellow]		対象外		対象外		対象外	
	72	水循環・水環境に関する意識の醸成	R4~5実施	対象外		[Red] [Yellow]		対象外		対象外		[Yellow]		[Red] [Yellow]	
	73	水循環、河川整備の認知向上	R4~5実施	[Yellow]		対象外		対象外		対象外		対象外		対象外	
	74	市民・市民団体・企業と行政との連携・協働	R4~5実施	[Yellow]		[Yellow]		[Yellow]		[Yellow]		[Yellow]		[Red] [Yellow]	
	75	市民と行政の意見交換の場の開催	R4~5実施	[Yellow]		対象外		対象外		対象外		対象外		対象外	
	76	上流域と下流域の市民の交流	R4~5実施	[Yellow]		対象外		対象外		対象外		対象外		対象外	
	77	行政間の連携の充実	R4~5実施	[Yellow]		対象外		対象外		対象外		対象外		対象外	
	78	市民団体同士の交流の促進	R4~5実施	[Yellow]		対象外		対象外		対象外		対象外		対象外	
79	市民と行政の連携・協働、市民活動の支援	R4~5実施	[Yellow] [Blue]		[Yellow]		[Yellow] [Blue] [Purple]		[Yellow]		[Yellow]		[Yellow]		

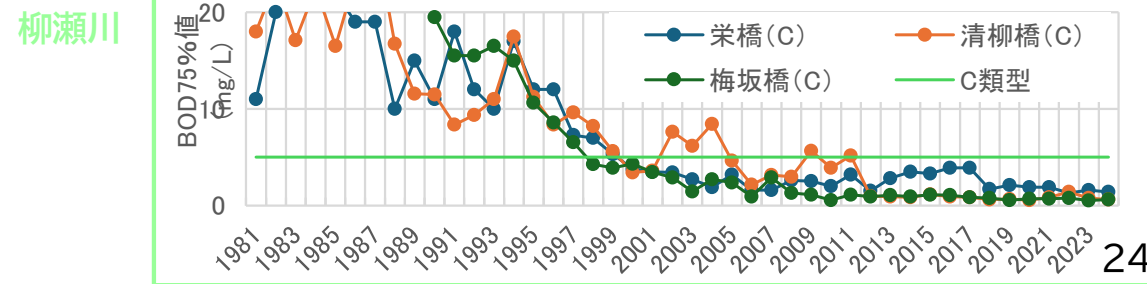
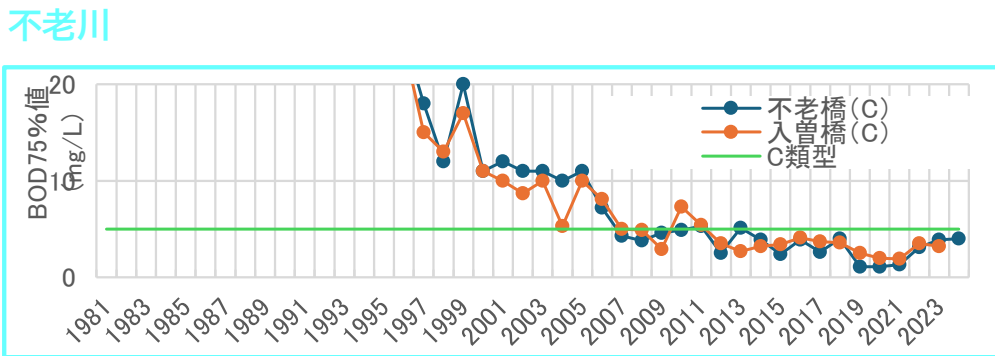
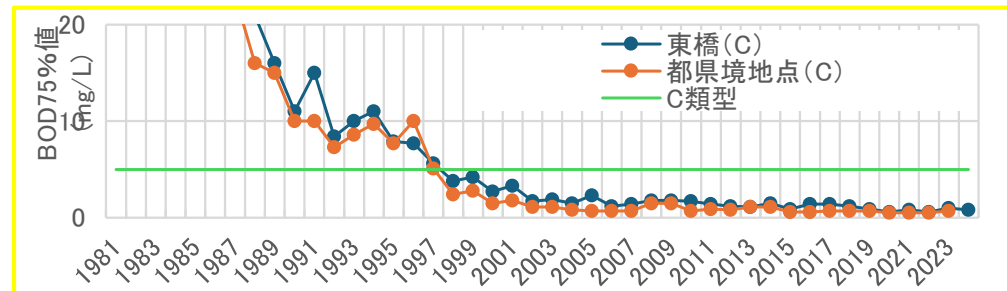
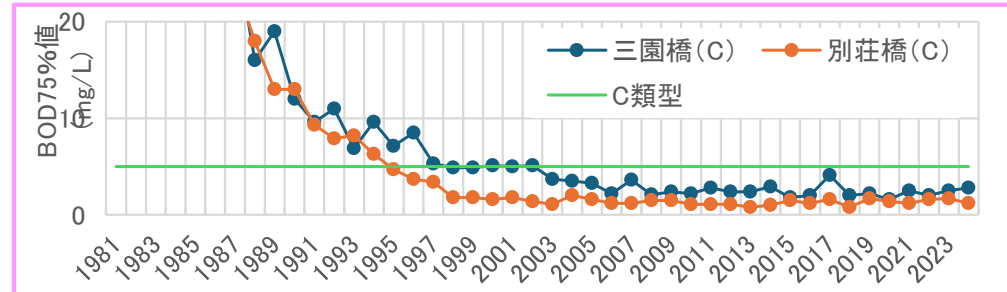
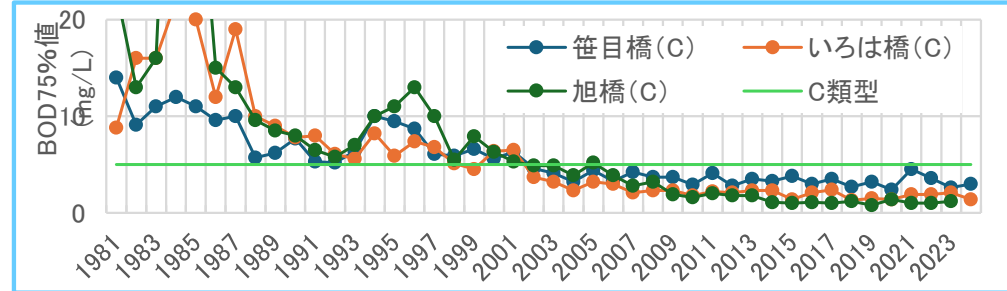
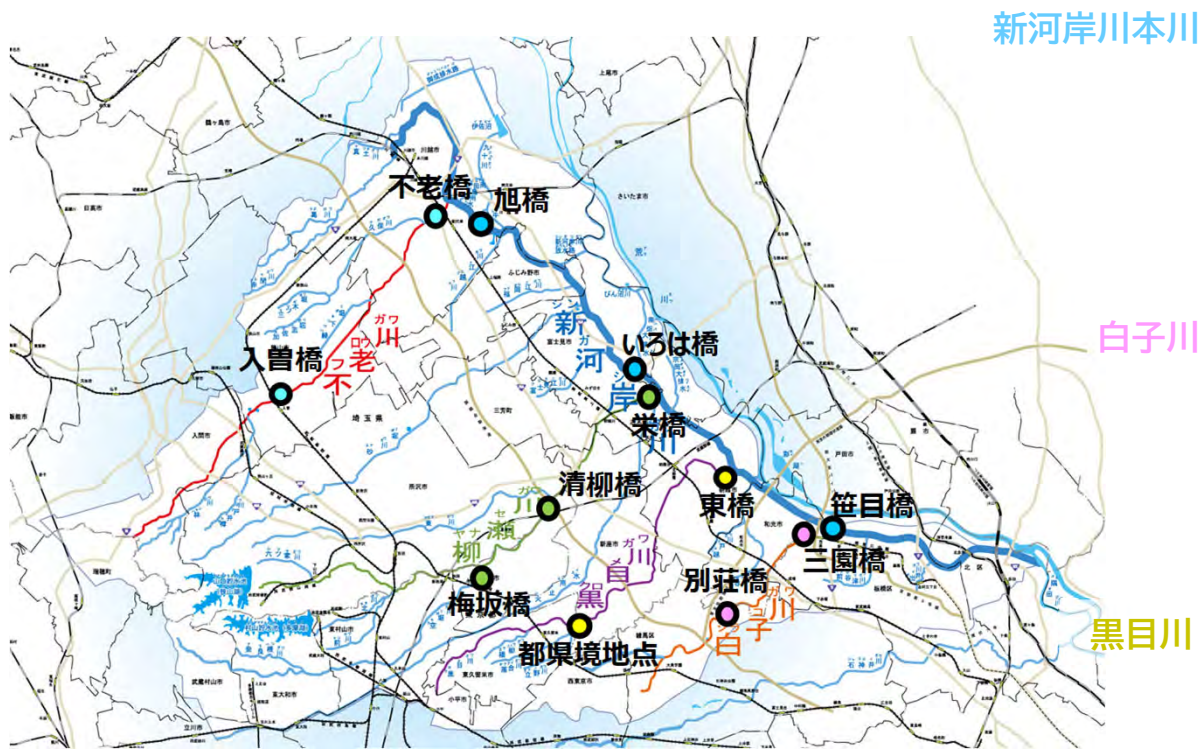
MP: マスタープラン、AP: アクションプラン

流域狀態量



水質

- 新河岸川流域の水質は、昭和後期から大きく改善し、近年は各地点で環境基準(C類型:BOD 5mg/L)を達成しています。
- これは下水道の普及に伴うものであり、平成11(1999)年以降も良好な傾向が続いています。
- 下水道整備が概ね完了したことから、直近5年間の水質は安定して推移しています。



地下水位

- 新河岸川流域では、地下水位は水循環を考える上で重要な指標であり、継続して観測が行われています。
- 観測結果からは、夏季に地下水位が上昇し、冬季に低下する季節変動が確認されています。
- 過去19年間(2005～2024年)を通して、各観測地点の地下水位は概ね安定した状態を維持しています。

地下水位観測所位置図

